

「 災害にそなえてわたくしにできること 」

神奈川県 函嶺白百合学園小学校 5年 小村 のぞみ

「箱根町のハザードマップありますか？」私は、町役場の防災課で聞きました。すると、洪水と崖崩れのハザードマップを見せてくださいました。私の住んでいる箱根湯本は、山があり、早川があります。災害があった時には、どのように避難すればよいか地図を見ながら一緒に確認してくださいました。川があり、崩れやすい山があるので、早めに避難することが大切で、情報は町の放送やテレビ神奈川から得られることが分かりました。また、山の崖崩れが起こりやすい所の調査がまだ続いていることも教えてくださいました。

今年の夏、「西湘災害ボランティアネットワーク」の主催する「自然災害発生時の身の守り方」のお話に参加しました。そこでは、新聞紙で靴を作ったり、コップを作って災害時に利用する方法を教えてくださいました。中でも一番印象に残ったことは、「自助・共助・公助」についてです。それまでは、警察や消防、救急、自衛隊などの公助が一番早く重要だと思っていました。でも実際には救急車も消防車もパトカーも台数が少なく、大災害が起きた時には直ぐには来られないこと、自衛隊も災害発生から3日後にならないと現地に到着しないことを知り、とてもショックを受けました。災害直後に公助に頼れないということは、自助と共助が大切だということが分かり、自分や家族は自分達で守らなければいけないこと、地域で力を合わせる大切だと実感しました。私も、人任せではなく、自分で動くことを学び、人を助けて自分の命を守りたいと思いました。

「伝言ダイヤルは何番か知っていますか。まず①177、②117、③171」

「はい。答えは③の 171 だと思います。」

「そうです。答えは、③の 171 です。」

同じ質問を祖母にしてみました。

「知らない。」

私はびっくりしました。同じ質問を家族にしたところ、父は知っていましたが、母は知りませんでした。さっそく私は、「171 は、いないと覚えるといいよ。」と教えました。そして、家族と災害について話し合うことが必要だと考え、みんなで防災について話し合いました。まず家族がバラバラだった時の避難場所の確認をしました。そして、災害ダイヤルで安否確認することに決めました。災害時すぐに避難できる様に家の中を綺麗にすることも話し合いました。持出し袋の中身も定期的に確認することにしました。今まで災害について考えたことはありましたが、具体的に考えたり話し合ったことがなかったので、準備をしておくことは必要なことだと思いました。

学校から帰る時、駅から自宅までみんな顔見知りです。自治会のお掃除にはよく参加します。地域の人達の繋がりが深い所だと思います。高齢の方や目の不自由な方もいらっしゃいます。災害時は、みんなで協力したいと思います。

私の住んでいる箱根町は、緑があり山があり川があり自然豊かな美しい場所です。私はそういう所が大好きです。山が多く今まで大雨で土砂崩れが起きたことが何度もあります。最近異常気象で、箱根町にも大雨警報が出たことが何回かありました。大きな災害が起きないといいなあと思いますが、万が一起きた時に備えて、これからも防災について話し合ったり、訓練に参加したり、自分のできることを考えていきたいと思っています。